拓水

TAKUSUI
No. 639

1
January. 2010

発行　㈶兵庫県水産振興基金

兵庫の漁業人のための情報誌

但州丸帰港式（12月6日　神戸港第3突堤）

新年のご挨拶

「ひょうご海の子」作品受賞者決定!!!

NEWS

2010年度 税制大綱でA重油の免税･還付措置の1年延長

香住高校但州丸「マグロはえ縄漁業実習」帰港式

年頭挨拶

年頭のご挨拶

兵庫県漁業協同組合連合会
代表理事会長
山田　隆義

新年あけましておめでとうございます。

年頭にあたり、県下ＪＦ及び組合員の皆様ならびにＪＦグループの皆様に謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年６月にＪＦ兵庫漁連会長の重責を担って就任以来、将来のＪＦ兵庫漁連のあるべき姿をしっかり見据えながら、５ヵ年中期経営計画を実行し、日々改革の気持ちを持って、職員と力を合わせながら経営改善に努めてまいりました。

第34期は、５ヵ年中期経営計画実行後、初めて丸一年を通しての事業年度となりましたが、計画を上回る実績を上げることが出来ましたことは、会員はじめ関係機関の方々のご理解とご協力によるものと深く感謝申し上げます。

さて、世情を見ますと金融危機に端を発する100年に1度と言われる世界同時不況は、ようやく危機的な状態を脱したとの見方も示されていますが、実感としては景気が回復していると感じることができませんし、政権交代による期待感とは裏腹に大きく方向転換した政策に対しての不安感が増幅しています。

漁業を取り巻く環境も、漁場環境の変化などによる漁獲量の減少やコスト高に加え、こうした経済の低迷やデフレ傾向の続く中で、かつて無いほど魚価が低迷しています。さらに、漁業就業者も減少の一途をたどり漁業の担い手不足が深刻化する等、今後も厳しい状況が予想されます。

この様な課題が山積する中、去る、平成21年10月、「ＪＦ全国代表者集会」において、今後５年間に取り組むべき新運動方針「ＪＦグループ組織・経営・事業戦略」が採択され、運動期間の初年度は、①組織・事業再編と人づくり、②経営改革に向けた取り組み、③事業改革に向けた取り組み、④協同組織の強み発揮と漁業・漁村への貢献の４点を重点取組事項に掲げ、「ＪＦの原点への立ち返り」を基本的として取り組むことを決定しました。

厳しい現状を乗り越えるため、全国のＪＦグループが不退転の決意で取り組んでいくこととしており、本県においても県下ＪＦのご協力を得ながら兵庫の漁業にとって実のある取組みとして位置付け実践したいと考えます。

年々厳しさを増す水産業界でありますが、本県漁協系統においては、過去にさまざまな危機に直面しながら時の先人たちは、英知を結集し団結をもって危機を乗り越え、兵庫の漁業を全国に誇るものとしました。我々は、このような歴史・伝統を次代へ継承し、豊かな漁場を引き継いでいかねばなりません。そして、近い将来、活気に溢れる水産業の時代に備えるべきであると確信しております。

ＪＦ兵庫漁連としても、指導部を軸に漁業者の期待に応え漁業の振興を図ることはもとより、事業効率を高めその経営基盤を安定させ、新たな経営手法の確立など業界の牽引役としての役割を発揮するため総力を結集し鋭意努力しております。

具体的には、豊かな漁場再生、魚価対策ならびに儲かる漁業の構築など漁業における基礎生産力を向上させるためこれらを喫緊の課題としています。

豊かな漁場再生として、瀬戸内海再生法の制定に向け集められた140万人署名の後押しを受け、法制化の早期実現が求められます。また、魚価向上への取組みとして、業界初の試みである消費者と漁業者をつなぐ窓口SEAT CLUB(シートクラブ)による、兵庫の魚のＰＲや食育・地産地消をベースとする魚食普及活動の強化、カンカン隊(直販車)による水産物の消費推進、さらには水産技術センターの技術指導による新たな養殖技術の開発を通じた儲かる漁業の推進に取り組みます。

このほか、国が実施する燃油高騰対策による補助事業の普及に関して、本会の事業費は全国一の実績となっており、今年も積極的に推進するとともに、さまざまな施策の実現に向けて国・県への要望活動や漁政活動を強化します。

これらに加え、組織強化の一環として地域合併を推進する中で、関係者のご努力により新年早々、姫路市漁業協同組合の発足に至りました。この合併で県下42ＪＦとなり、さらなる組織の基盤強化に努めて参ります。

今後におきましても中期経営計画を核とした経営改善に努めるとともに、会員の皆様との対話を基本とした運営に全力で努めてまいる所存でありますので、より一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

年頭にあたり、本年が漁業にとって明るく希望の持てる年となりますとともに、皆様のご繁栄とご健勝を祈念いたしまして、新年のご挨拶といたします。

～元気で安全安心な兵庫をめざして～

兵庫県知事
井戸敏三

新年あけましておめでとうございます。

21世紀も10年目、今年は阪神・淡路大震災から15年の節目を迎えます。

これを期に、改めて震災の経験と教訓を伝承する「伝える」「備える」取組とともに、創造的復興を成し遂げてきた兵庫の力を礎に、21世紀の成熟社会を先導する地域づくりを進めましょう。

震災直後に540万人まで減少した人口も、昨年11月、560万人を超えました。今後予測されている本格的な人口減少社会が到来しても、地域社会が活力を失わないよう、兵庫の多様性を生かし、元気な兵庫づくりに取り組まなければなりません。

一つは、安全安心の確保です。台風９号の教訓を踏まえ、山の管理や谷筋の砂防対策などを徹底します。

また、新型インフルエンザ対策、緊急経済雇用対策に万全を期します。

二つは、地域活力の増進です。ふるさと自立計画への支援、商店街の活性化、就農促進など、地域の努力を応援します。また、仕事と生活が調和する社会、女性や高齢者の元気を生かせる社会の実現をめざします。

三つは、新時代の先導です。少子化、高齢化、地域偏在とともに進む人口減少などの社会の変化に対応するとともに、市町、県、広域の各段階で、自主自立をめざした改革を進めます。

変化の激しい時代だからこそ、柔軟な発想と行動力で、ともに元気で安全安心な兵庫をつくりましょう。

厳しさも　課題も乗り越え　行く先は
新たな地域の夢結ぶ途

年頭のご挨拶

兵庫県信用漁業協同組合連合会
代表理事会長
秋武　宏

新年あけましておめでとうございます。

年頭にあたり、会員並びに組合員の皆様に謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

日本経済は、平成20年９月のリーマンショック後に急激な景気悪化に陥りました。

昨年春頃には、景気に持ち直しの動きが見られるようになりましたが、実体経済は依然として底這圏で推移しており、自律的な回復といえる状況には至っていません。

本県の漁業情勢につきましても、漁業生産量の減少、漁業就業者数の大幅な減少による高齢化の急速な進行、温暖化に伴う海の生態系の異変などにより漁業生産構造は脆弱化し漁業経営は非常に厳しい状況が続いています。

漁獲量においては、沖合底びき網、海面養殖業は例年通り推移したものの、船びき網において、イカナゴ漁は不漁による相場の暴騰、チリメン漁は逆に魚価が低迷する結果となりました。

本会はこれら厳しい現状を金融面で支援するため、燃油高騰に続く資材高騰や魚価安により資金繰りに窮する中小漁業者の漁業活動維持のため、国の施策に呼応して、漁信基保証を通じた新たな漁業緊急保証対策にも積極的に取組んでまいりました。

また、６月には、浜の暮らしを守るということの意義を再認識し、「利用者との信頼」を基礎とした金融を展開するため、中期経営計画を新たに策定し、漁業利用者はもとより地域全体に貢献し、愛される金融機関として組織運営を行うことといたしました。

７月に本店を神戸市から明石市の新水産会館に移転し、さらに円滑な業務運営と利用者の利便性の確保、積極的な事業展開を目的として、８月に明石地区、但馬地区において１支店化を実施。12月には岩屋営業店を東淡営業店と店名を改め本会プロパー職員による店舗運営を開始いたしました。

このような動きの中、漁業系統におきましても、昨年10月に開催したＪＦ全国代表者集会において、新運動方針「ＪＦグループ組織・経営・事業戦略」を採択。①組織・事業再編と人づくり、②経営改革に向けた取組み、③事業改革に向けた取組み、④協同組織の強み発揮と漁業・漁村への貢献を重点取組事項として決定いたしました。

本会においても、「あんしん体制（信用事業安定運営責任体制）」の実効性の確保を通じて、引き続き漁業・漁村に必要な漁業金融を安定的に提供し、浜の暮らしを守る信頼の金融機関の実現に向け取り組んでまいる所存です。

最後になりましたが、水産業のさらなる発展と皆様方のご繁栄とご健康を祈念申し上げ、新年のご挨拶といたします。

年頭のご挨拶

兵庫県漁業共済組合
組合長理事
吉岡　修一

県下漁業関係者の皆様、新年明けましておめでとうございます。

ご承知の通り、世界経済はもとより日本経済は今なお先行き不透明な中で、昨年８月の総選挙において長年の自民党政治に一定の終止符がうたれ、今後の「日本丸」の舵取りは民主党を中心とする政権に委ねられるところとなりました。また、昨年は新型インフルエンザが世界的に流行するとともに、国内においても神戸で始めての感染者が確認されましたが、よくも悪しくも神戸が「発祥の地」となる事象が多い中で、今回ばかりは誠にもって遺憾とするところであります。それはそれとしまして、牛肉についてはBSEいわゆる狂牛病。鶏肉については鳥インフル。豚肉についても豚インフルというように、店頭に並ぶ主要食肉３品がこぞって問題となっている現実をみましたときに、(彼ら)にとっては、古来より多くの牛、鶏、豚を殺戮し好んで食してきた人間に対する何らかの警告或いは報復なのかも知れません。ただ今日、我々の関係する魚類に関してそういった問題が起きていないことは不幸中の幸いと言わざるを得ません。

さて、昨年は内海地区の基幹漁業であるノリ養殖漁業については、地域によって問題はあったものの総体的には可もなし不可もなしという状態で推移しましたが、チリメン・イカナゴを中心とする船びき網漁業については総じて芳しくありませんでした。また、但馬地区においても漁獲不振や魚価の大幅低迷などによって久方ぶりに多くの共済金が支払われる状況となりました。

このことに加え、平成20年度から開始されております漁業経営安定対策事業(積立ぷらす)についても、一部のノリ養殖漁業や但馬の沖合底びき網漁業関係で多くの払戻が発生し、更には船びき網漁業関係においても相当の払戻が発生する見込みとなっており、手前味噌にはなりますが、共済事業や漁業経営安定対策事業が漁家経営のための大きな支えになっているものと確信致しておるところであります。

新年度も色んな意味合いで厳しい状況になることが予想されますが、共済組合としましても漁業者の更なる経営安定のために、役職員が一丸となって事業推進してまいる所存でありますので、どうか漁業関係者の皆様におかれましては、漁業操業の安全はもとより健康にも十分ご留意されるとともに、共済事業に対する倍旧のご支援とご協力を賜りますよう衷心よりお願い申し上げまして、年頭のご挨拶とさせて頂きます。

新しい年を迎えて

兵庫県農政環境部
農林水産局水産課長
山村　雅雄

新年あけましておめでとうございます。
皆様には、清々しく新春をお迎えのことと心からお喜び申し上げます。

新しい年が希望に満ちた一年となりますよう、心からご祈念申し上げます。

さて、昨年は新しい政権が誕生し、これまでの施策や事業の全面的な見直しを行うという大きな動きがありました。また、国民の安全・安心な生活の確保に取り組む消費者庁の発足や、市民が刑事裁判に参加する裁判員制度の開始、アメリカにおいてはオバマ大統領の就任など、内外ともに様々な「変革」の波が押し寄せた一年でした。一方で局地的な大雨による災害や、世界的な新型インフルエンザの流行など、自然の脅威を痛感する年でもありました。私たちを取り巻く環境が大きく変化していることを実感した一年であったと思います。

水産業界においては、依然、燃油価格が高い水準で推移しており、漁業生産量の減少や魚価の低迷により漁業経営が厳しさを増す中、「魚離れ」「中食化」「孤食化」という言葉に象徴されるように消費構造も変化し、漁業に携わる者としてこれに対応することが強く望まれています。こうした課題を解決し、漁業者の負託と消費者の期待に応えるためには、今後ますますＪＦグループの役割が重要になります。

県としましても、第２の鹿ノ瀬(仮称)構想など、漁業者が実践される資源管理と一体になった漁場整備や栽培漁業に取り組み、豊かな海の再生に向け、資源培養型水産業を推進するとともに、魚食普及や水産物のブランド化による消費の拡大、産地販売力の強化等を進め、持続可能な漁業生産体制の確立と水産業の振興を図って参りますので、引き続き県民に安全で安心な水産物を安定的に供給できる水産業の発展にご尽力いただきますようお願いします。

昨年は、漁協系統団体の皆様がその活動拠点として、明石市内に新たに水産会館を建設された節目の年であり、また「SEAT CLUB」(シートクラブ)による料理教室や旬を楽しむ会の開催など、消費者に向けた積極的な情報発信も始められたところです。このような取り組みが広く認知され、より大きな実を結ぶことを期待しています。

新たな年の始まりとともに、本県水産業がますます発展し、輝かしい未来に向かって力強く前進されるとともに、皆様の操業安全と海の幸に恵まれますことを祈念いたしまして、新年のご挨拶といたします。

年頭のご挨拶

兵庫県農政環境部農林水産局
漁港課長
坪内　稚和

新年あけましておめでとうございます。

昨年４月に就任して以来、「兵庫県漁港大会」や「兵庫県漁連通常総会」など様々な行事に参加させて頂き、ありがとうございました。

これらの行事などの席で、漁協関係者からは、「イカナゴをはじめ漁獲高が上がらない」とか「魚やノリの値段が低迷している」と言った厳しい水産業の現状を訴える発言を多くうかがいました。

そして、９月には新政権が誕生し、「事業仕分け」と言った新たな仕組みが取り入れられ、「農道整備事業は廃止!」、「下水道整備事業は自治体に移管!」などの判断が下されました。

漁港関係事業も例外でなく、物揚場などを整備する「水産基盤整備事業」は10%カット、大型ノリ乾燥機の導入などを支援する「強い水産業づくり交付金」も１/３カットなど、昨年度予算と比較すれば、７割程度の予算となる厳しい状況になりそうです。

このような状況を反映して、新たな年は漁獲量の増加と漁業者の生活に直接結びつく施策・事業の展開が求められ、これが地域や漁業の活性化に貢献できることが期待されているものと思われます。

また、このような施策等の展開と並行して、将来の漁港・漁村の姿を見据えた構想・計画づくりを皆様とともに考えいく年ではないかと思われます。

具体的には、現在の施設を子や孫の世代にどのような形で引き継ぐのかとか、その際、さらに漁業活動の効率性を高めるため、新たな施設・機能が必要となるのかなどの検討を行いたいと考えています。

最後になりましたが、皆様方のご健康とご活躍を祈念するとともに、漁獲量の回復の年となることを期待しまして、新年のご挨拶といたします。

年頭のご挨拶

兵庫県立農林水産技術総合センター
水産技術センター　所長
反田　　實

新年明けましておめでとうございます。

皆様方におかれましては気分新たに清々しい新年をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

水産技術センターでは、本県漁業が抱えている様々な課題について、技術的な立場から課題解決に向けた取り組みを進めてまいります。

現在、瀬戸内海では、養殖ノリの色落ちと漁獲量の低迷という２つの大きな課題に直面しています。これらの原因として海の栄養塩濃度の低下や藻場・干潟などに代表される沿岸生態系の変化があります。そこで、豊かな海の再生を目標に昨年に引き続き栄養塩環境の改善に向けた取り組みを進めてまいります。また、沿岸生態系において重要な役割を果たしているアサリやウチムラサキなどの二枚貝類の資源増大技術の開発を進めます。これらの取り組みはすぐに効果が現れるものではありませんが、中・長期的に漁場環境の改善と生産力の向上につながると確信しています。さらに、ノリの優良品種の開発やカキ養殖研究のほか、ヒジキなどの新しい養殖技術の開発にも取り組む所存です。また、イカナゴ、シラスの漁況予測精度の向上にも引き続き取り組んでいくこととしています。

日本海では、昨年、大型クラゲが大量に発生し漁業に被害を与えました。発生域が大陸沿岸であるため、直接原因を取り除くことは出来ませんが、漁業被害を低減させるため、出現状況や予測情報の迅速な提供のほかに、沖合底びき網の漁具改良にも取り組んでいます。昨年の７月には新漁業調査船「たじま」が竣工し、現場での調査研究能力が飛躍的にアップしました。新調査船の機能をフルに活用して、より迅速に効率的な漁具開発を進めてまいります。また「たじま」が行う調査に漁業者も同船してもらい、より漁業現場に役立つ調査のあり方を模索していきたいと考えています。そのほか、ウニ資源や近年漁獲量が増大しているサワラ資源については加工利用も含めた総合的な研究を進めてまいります。

今後とも、水産業の発展に鋭意努力して参りますので、昨年に引き続きご支援ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、新しい年が皆様にとって実り多い年となりますよう祈念申し上げて、新年のご挨拶と致します。

2010年 年頭のご挨拶

全国漁業協同組合連合会
代表理事会長
服部　郁弘

新年明けましておめでとうございます。
漁業者の皆様並びにＪＦグループの皆様に謹んで新年のご挨拶を申しあげます。

わが国漁業・ＪＦグループを取りまく環境は、国内外の経済・社会情勢がめまぐるしく変化する中、資源の減少、漁業者・漁船の二重の高齢化進行による生産構造の脆弱化や燃油価格の再上昇など今後も厳しい状況が予測されます。

我々ＪＦグループは、昨年10月に開催した「ＪＦ全国代表者集会」において、今後取り組むべき５年間の新運動方針「ＪＦグループ 組織・経営・事業戦略」を採択しました。

2010年は、運動期間の初年度となりますが、本運動方針の重点取組事項は①組織・事業再編と人づくり、②経営改革に向けた取り組み、③事業改革に向けた取り組み、④協同組織の強み発揮と漁業・漁村への貢献―の４点を掲げ、基本的な考え方に「ＪＦの原点への立ち返り」を置き、ＪＦグループの組織・事業の将来方向を決する新たな方針として不退転の決意で諸改革に取り組むことを決定したものです。

昨年は、政権交代という歴史的な転換期の中で、政策決定の場においても新しい価値観・手法によるシステムが構築される場面がありました。しかし、国民が我々ＪＦという協同組織に期待するものは、安全・安心な水産物の安定的供給をはじめ、漁村振興や環境・生態系保全への取り組みなどをはじめとした多面的機能の発揮など、ＪＦグループが本来、基本として取り組んできたものです。我々は、この重要な使命を再認識しながら自らの改革に取り組んでいく必要があります。

しかし、このような役割を果たし食料供給の担い手の育成・確保を図っていくためには、まず安心して漁業を営むことが出来なければなりません。「漁業共済」や「積立ぷらす」の拡充による漁業収入の安定、コストの太宗をしめる燃油・飼料の高騰に対するセーフティネット措置の創設による漁業所得政策の確立などが重要な課題です。

一方、産地市場の価格形成力を向上させ、漁業者の手取りアップを目指すためには、魚食の推進や地産地消における新たな消費者層の開拓などにＪＦグループが強力に取り組んでいくとともに漁業者自らの取り組みへの参加も必要だと思います。

ＪＦ全漁連としましては、我々ＪＦグループの改革への取り組みや必要な政策の実現に向けて広く国民への理解を深めていくことが重要であり、このような取り組みのもとで現在水産業が置かれている厳しい状況を踏まえ、漁業者及びＪＦグループの声を反映した漁業経営の安定につながる仕組みが一刻も早く構築されるよう一層の努力を重ねていく所存です。この1年の操業の安全、皆様方のご繁栄とご健康を祈念申し上げ、新年のご挨拶といたします。

暮らしの保障に万全を期する

全国共済水産業協同組合連合会
代表理事会長
吉岡　修一

新年あけましておめでとうございます。皆様方には日頃からＪＦ共済事業にご理解とご尽力を賜り心より感謝申し上げます。年頭にあたり一言ご挨拶を申し上げます。先ず始めに、昨年続発いたしました海難事故により遭難された方々、ご関係者各位、また、大型台風や集中豪雨等の自然災害により被災された皆さまに心からのお悔みとお見舞を申し上げます。今後、海難事故、自然災害が起こらないよう願って止みません。

さて、わが国経済は、一部に明るい兆しが見えていますが、雇用情勢の悪化や消費の腰折れ、地域経済への資金繰り等、いまだ厳しい状況が続いています。生損保業界にあっては市場縮小に景気低迷が追い討ちをかけ、売上高を示す保険料収入を見ると生保では銀行窓販が全体を押し上げ増収となったものの、損保では２年連続で前年を下回る状況になっています。一方、漁業・漁村においては、水産資源や就業者数の減少、魚価の低迷等の構造的な問題に加え、昨今の資源・原材料価格の乱高下、そして金融危機に端を発する世界的な景気悪化などの影響を受け、さらに厳しさを増しています。

このため、昨年の10月に開催されたＪＦ全国代表者集会では、今後もＪＦが組合員の負託に応えるとともに、漁業・漁村の中核として、また、我が国における水産物の安定供給の唯一の担い手として社会に貢献していくため「ＪＦグループ 組織・経営・事業戦略（2010～2014年度）」を決議し、同内容の実践に不退転の決意で取り組むこととなりました。

この中で、ＪＦ共済においては計画達成に向けた目標管理を徹底し、共済事業寄与率の向上の実践を通じて共済事業量を確保するとともに、保険法等法制対応のための措置や「お客様相談窓口」機能の充実による共済契約者保護の強化、また、新情報システム「まありんねっと」活用による「提案型推進」の促進、組合員全戸推進の展開を通じた共済事業実施体制（基盤）の強化に継続して取り組んでまいります。一方、ＪＦ共水連としては共済事業を安定的に運営するために純資産・自己資本の充実をはかり、マネジメント改革の推進やコンプライアンス・リスク管理態勢の整備・強化を含め、万全の態勢で臨んでまいります。

21年度は「海といっしょに。浜といっしょに。― ＪＦ共済３か年計画」の中間年度として重要な年度であり、当計画に掲げた活動基本方針を柱とし、当面の重要課題を踏まえつつ、その具体的施策に取り組むこととし、残る僅かな期間ではありますが、引き続き、各県の推進本部を軸とする漁協活動とＪＦ共水連の緊密な連携のもと、いっそうの運動の強化によって所期の目標達成に向け、総力結集の歩みを続けてまいりたく存じます。

どうか本年におきましても、ＪＦ共済につきまして引き続き皆様の特段のご高配を賜わりますよう、切にお願いを申し上げる次第でございます。最後になりましたが、わが国漁業の明るい未来とＪＦグループがますます発展することを祈念いたしますとともに、皆様方のますますのご健勝とご活躍を心からお祈り申し上げます。

JF兵庫漁連
第34回通常総会開催

12月8日(火)、明石市内のホテルにてＪＦ兵庫漁連の第34回通常総会が開催されましたので、その概要を報告します。

兵庫県農林水産局藤原道生局長、ＪＦ全漁連宮原邦之専務理事、農林中央金庫大竹和彦大阪支店長臨席のもと、開会にあたり、山田会長が「昨年秋からの経済の大異変に加え、今年は民主党へ政権交代がなされ、魚価の低迷など我々漁業をとりまく環境は非常に厳しい状況となっているが、我々漁業者はそれに怯むことなく、力を合わせて前に進んでいかなければならない。

その中で、全漁連と連携しながら政府に対し、これからも漁業者の訴えを重く受け止めていただけるよう、働きかけていきたい。

さて本県の漁業では、日本海ではズワイガニ漁が始まったが、現在のところ量的に少なく、値段も少し安い状況と聞いており、また瀬戸内海では、今までは高値がついていた明石タイ・タコが、最近では値段を下げても売れないという厳しい状況が続いている。

また、内海では、ノリ・カキ養殖が始まり、これから最盛期を向え順調に推移してくれることを期待している。

本会においては、50数年住み慣れた神戸の地から、新しく明石へ水産会館を移転し、そこでまた新しい歴史を刻むべき第一歩を踏み出した。

その中で、皆さんが獲った魚を広く市民に知っていただくために、新たな試みとして「SEAT CLUB」(シートクラブ)を発足させ、現在では会員数約2,400人となって会員の皆様より好評を頂いており、今後も漁連の補助事業の一環と考え、引き続き力を入れて取り組んでいきたいと考えている。

そのような中、本会での事業運営は5ヵ年中期経営計画の実行、指導事業賦課金の徴収等、会員皆様のご理解と、ご協力により第34期は計画を上回る実績を上げることが出来、本来なら皆様に出資配当すべきところ、今回は県漁連組織の財務強化を優先とさせていただき、次年度以降は、会員の皆様に出資配当できるよう、役職員一同、より強固な団結力をもって取り組んでいく所存である。

今後とも県当局をはじめ、関係機関ならびに会員、系統団体各位の格別なるご理解とご協力を賜りますとともに、ご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げる。」と挨拶され、次の事項が可決決定されました。

第1号議案　第34期貸借対照表、損益計算書、剰余金処分案、注記表および事業報告の承認について
第2号議案　第35期事業計画および収支計画の設定について
第3号議案　指導事業賦課金の徴収について
第4号議案　第35期内における借入金の最高限度について
第5号議案　第35期内における余裕金の預け入れ銀行について
第6号議案　役員報酬の支給について
第7号議案　役員の選任について

● 事業概要

今期は、石油事業、のり共販事業の基幹事業が順調に推移したことと、経費削減が実行出来た事により、計画を上回る結果となりました。しかしながら、組合員の減少、資源量・水揚げの減少、魚価低迷と漁場環境の悪化等、衰退傾向が顕著であることから、当会事業運営に影響が大きく、逼迫した経営状況となりましたが、会員・所属員の負託に応えるべく、次の通り取り組みました。

石油事業は、不安定な石油動向の中、34期前半には燃油価格を大幅に下げることができました。後半からは値上幅の吸収等により価格安定に努めました。

のり海藻事業は、新しい得意先の開拓や、優良品種の開発に努めると共に、のり販売戦略の抜本的な見直しを行う等、積極的に兵庫のりの消費拡大と販売強化に取り組みました。

資材事業は、配送コストの削減や仕入先の絞込みにより、スケールメリットを最大限に生かし価格抑制、安定供給に努めました。

流通加工事業は、会員・所属員との連携を深め「浜値の向上」を目指し、新たな流通システムの探求に取り組みました。また、㈱ひょうごぎょれん販売と協力して新商品を開発し、販売開拓に努めました。

指導事業は、豊かな漁場再生、魚価向上に繋がる魚食普及活動ならびに、新たな儲かる漁業の構築をすべく、漁政活動を推進すると共に、省燃油実証事業や輪番休漁事業など燃油高騰対策をはじめとする補助事業の普及に努めました。

以上の結果、本年度は、中期計画の取り組み等により事業計画を上回る成果となりました。

● 事業計画

漁業従業者の減少、漁業生産活動の縮小・停滞傾向を直視し、経営理念に則りつつ5ヵ年中期経営計画の達成に向け、本会の組織・事業の根本的改革に取り組みます。

一般管理部門では、会員のための組織作りを目指し、人づくりや合理化の推進に努めます。また、明石市に竣工した水産会館をPRし、広く県民も利用できる施設として、会館管理運営に努めます。

石油事業は、コスト削減を図り、配送専属スタッフ等の活用により配送効率を高め、燃油価格に還元し、柔軟な安全供給に取り組みます。

資材事業は、多種にわたる品目整理を行い、供給数量のまとめを実施する方策を探り、積極的な営業活動を行い、目標売上・目標利益の達成を目指します。

のり海藻事業は、ノリの安定生産のために、色落ち対策として、施肥技術の確立、海底耕耘等の取り組み等を行います。また、兵庫の特長を活かした「しっとり派」宣言を打ち出すべく方策を検討し、広く普及拡大に努めます。

流通加工事業は、会員との連携強化を行い、新たな流通の仕組みづくりに取り組み、本県産の鮮魚や加工品の販路拡大に努めます。

指導事業は、ＪＦ組合長会議・ＪＦ参事会議等を通じて意見交換を行い、浜との一体感の醸成を図ると共に、豊かな漁場の再生に向けた活動を展開します。また、「SEAT CLUB」(シートクラブ)の実施により、魚食普及、地産地消を進めるため、一般消費者を対象とした料理教室等を行い、兵庫の海・魚をつなぐ窓口として活動を展開します。

2010年度税制大綱でA重油の免税・還付措置の1年延長

永田会長から井戸知事に要望書を提出

JF兵庫漁連は、平成21年12月４日、兵庫県議会議長並びに兵庫県水産振興議員連盟（永田秀一会長）に「農林漁業用輸入Ａ重油にかかる免税措置、同国産Ａ重油にかかる還付措置の延長」並びに「大型クラゲによる漁業被害対策にかかる事業の継続」について国へ積極的に働きかけをいただくよう陳情書を提出しました。

これを受け、平成21年12月14日、永田会長より兵庫県井戸知事へ、同内容の要望書を提出いただき、井戸知事からは、関係機関に対して早急に働きかけをする旨回答をいただきました。

その後、農林漁業用輸入Ａ重油にかかる免税措置並びに同国産Ａ重油にかかる還付措置については、平成21年12月22日の第24回政府税制調査会において、1年間に限定されたものの、本県をはじめ、全国のＪＦグループをあげた要請活動の結果、適用期限の延長が認められました。

関係国会議員、兵庫県井戸知事並びに兵庫県水産振興議員連盟の先生方にはとりわけＡ重油関連事項について、大変なご尽力を頂きましたことに感謝いたします。

平成２１年度　香住高校海洋科学科第２学年オーシャンコース

「マグロはえ縄漁業実習」帰港式

12月６日（日）「平成21年度香住高校海洋科学科第２学年オーシャンコース『マグロはえ縄漁業実習』帰港式」が、神戸港第３突堤において、漁協系統団体ら約30名の参加のもと行われました。

始めに、香住高校安田校長が、帰港式出席者への謝辞と生徒への労いの言葉を述べられ、兵庫県教育委員会の高見教育課長と、系統団体を代表してＪＦ兵庫漁連山口専務理事より、生徒たちへの将来の期待と激励を込めた祝辞を述べられました。

今年は、実習船「但州丸」に海洋科学科オーシャンコースの生徒４名が乗船、10月28日香住港を出港し、サイパン東方海域において15日間のマグロ漁業実習を行い、一段とたくましくなって帰ってきました。

水産業界は、後継者不足など厳しい状況におかれていますが、ぜひこの若い力で打破してもらいたいものです。

室津幼稚園で「漁師さんのお魚料理教室」開催

摂津播磨地区漁協青壮年部連合会

身を乗り出して実演を見る園児たち

生産者の立場からできる魚食普及活動とは何か。摂播地区漁青連ではこのテーマへの取組の一つとして、消費者が魚に触れる機会を増やす為に、幼稚園児や小学生及びその親を対象に「出張お魚料理教室」を実施していく方針を決めました。

第1回目となる今回は12月8日、8名のメンバーが兵庫県の水産関係職員や漁協系統団体職員の応援のもと、たつの市の室津幼稚園で16名の園児とその保護者を対象に開催されました。

メニューは①瀬戸ダコ混ぜご飯、②アジのつみれ味噌汁、③お魚ハンバーグで、園児はお魚ハンバーグづくりに挑戦しました。

摂播漁青連副会長　福井佐敏氏が挨拶と注意事項を述べた後、事務局のJF兵庫漁連職員によって、アジの5枚おろしからハンバーグのたねつくりまでが実演され、食い入るように見つめていた園児たちは、すぐに漁青連メンバーや保護者の指導のもとで危なげなく包丁を使い、アジをさばいて、つみれからハンバーグに仕上げていきました。

ハンバーグが焼き上がる間、園児たちは用意されたタッチプールでマダコや前浜の小魚に直に触れ、魚への親近感を深めていました。

また、併行して漁青連メンバーが、瀬戸内ダコの混ぜ込みご飯とアジのつみれ味噌汁を作り、焼き上がったハンバーグとともに全員でおいしくいただきました。

調理された魚を食べるだけでなく、自分で魚を調理して味わうことを経験した園児たちが、今後もさらに魚食を続けてほしいと期待するばかりです。

摂播漁青連では、方針決定後の初回ということもあり、直ちに反省会を実施して課題を抽出し、出張お魚料理教室を「摂播漁青連の目玉」として本格稼働に向けて形作ることとしています。

ハンバーグ作りの様子　　お魚ハンバーグの出来上がり

“なぜ今、賀川豊彦か” 献身100年を機に協同組合の原点を考える

A・シュバイツァー博士、インドのM・ガンディー首相とともに世界3聖人と称えられた社会運動家・賀川豊彦（1888〜1960年）先生が神戸で救貧活動を始めて丸100年、その記念式典が去る12月22日、神戸市内のポートピアホールで行われました。賀川先生は神戸市兵庫区で生まれ、明治末期、21歳の時、神戸市旧葺合区（中央区）で貧しい人々が大勢いた地域に住み救貧活動を始めました。そこでの経験から、先生は後に貧困問題や協同組合運動（生協設立）、労働運動、平和運動などに関わり、ノーベル平和賞や文学賞の候補にもなられました。生涯を「愛と協同の社会」建設に捧げられました。

式典は、賀川先生の検証活動を展開する「賀川豊彦献身100年記念事業神戸プロジェクト実行委員会」の主催で、協同組合関係者や一般市民等約1,600人が参加しました。

兵庫県知事井戸敏三氏、神戸市長矢田立郎氏の来賓挨拶、聖路加国際病院理事長日野原重明氏の記念講演に続き、記念事業実行委員長今井鎮雄氏、元コープこうべ理事長で神戸大学名誉教授野尻武敏氏、そして日野原氏3氏による鼎談（ていだん）が行われ、“なぜ今、賀川豊彦か”について熱く語られました。

IT革命などで社会環境は非人間化、非人格化時代といわれる今日、賀川先生の「人を愛する心」「現状を打開しようとする情熱」「実践し続ける意志」、この生き様こそ私達に人間性の回復へ明確な道標となるものでしょう。

鼎談の様子

平成21年度
「ひょうご海の子」作品受賞者決定！！

ＪＦ兵庫漁連とＪＦ兵庫女性連では、輝く未来を担う小中学生に、海を愛し、美しく豊かな海を守る事の大切さと漁業に親しむ心を育んでもらうために、「ひょうご海の子作品」（絵画・作文）を県下の小中学生を対象に募集し、絵画2,923点作文318点のご応募をいただきました。

12月1日に絵画部門、12月９日に作文部門の最終審査会を行い、受賞作品が決定いたしましたのでご報告いたします。

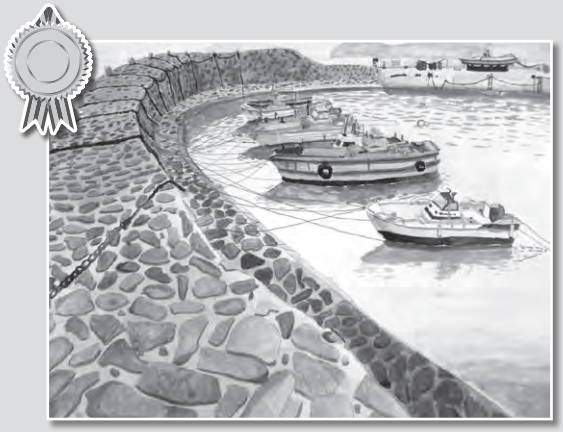
【絵画部門】

（敬称略）

賞　　名	学校名	学年	お名前
兵庫県知事賞	南あわじ市立灘小学校	2	安田祥杜
兵庫県教育長賞	南あわじ市立御原中学校	2	濱田峻吾
JF兵庫漁連会長賞	明石市立二見小学校	1	若山菜々峰
	播磨町立播磨南小学校	6	上野瑞穂
	神戸市立本山中学校	3	鹿島彩
JF兵庫女性連会長賞	南あわじ市立湊小学校	2	坂本知穂
	たつの市立御津小学校	4	高浜美紅
	高砂市立松陽中学校	2	安部草太郎
JF兵庫信漁連会長賞	明石市立大観小学校	3	中谷匡佑
	伊丹市立松崎中学校	2	栫あかり

・受賞作品は、兵庫県水産会館 展示スペースにて平成21年12月18日～平成21年1月７日まで展示を行いました。
・また、JF兵庫漁連HPでも受賞作品（佳作含む）を紹介いたします。

＜知事賞＞
南あわじ市立灘小学校 ２年　**安田 祥杜**



＜教育長賞＞
南あわじ市立御原中学校 ２年　**濱田 峻吾**

【作文部門】

（敬称略）

賞　　名	学校名	学年	お名前	題名
兵庫県知事賞	香美町立香住第一中学校	1	堀名真祐	私は海の子
兵庫県教育長賞	南あわじ市立辰美小学校校	1	西田拓海	おとうさんはりょうしさん
JF兵庫漁連会長賞	洲本市立洲本第一小学校	3	平井璃乙	お父さんのがんばり
	香美町立香住第一中学校	6	榎本麻由	私の地引きあみ体験
JF兵庫女性連会長賞	香美町立香住第一中学校	2	麻田まい	香住の漁業
	淡路市立郡家小学校	3	石上大将	ぼくのとうちゃん
	三田市立武庫小学校	5	福本あゆみ	守りたい。みんなの海
JF兵庫信漁連会長賞	小野市立小野中学校	1	稲岡優衣葉	海を守ることと森をつくること
	淡路市立石屋小学校	2	東根正弥	海とおんだんか
	三田市立学園小学校	5	宮井ゆう菜	海っていうのはこんなもの!

・２月中旬～下旬に海の子作文集を発刊予定です。現在、JF兵庫漁連HPに受賞者（佳作含む）と上位2作品を掲載中です。

あなたの「一本」が、日本の「農」を育みます

ふぁ～みん農援隊自動販売機を設置

ＪＡ兵庫南は11月13日から、売り上げの一部が農業育成や田園風景保全への寄付金になる自動販売機をＪＡビル横のほか、協同駐車場や公用車駐車場、ふぁ～みん寺家町特産館にも設置しました。

同自販機は、お茶、コーヒー、スポーツ飲料などのドリンクを買うと、その中から農業育成や田園風景の保全に役立つように、ふぁ～みん農援隊に寄付されます。

設置場所は加古川市のＪＡ兵庫南の本店横のふぁ～みんインテリジェントビル憩いの広場のほか、ＪＡの共同駐車場や公用車駐車場、ふぁ～みん寺家町特産館です。動販売機正面には、トラクターや広大な農園風景の他、㈱ふぁーみんサポート東はりま社員の福田佳男さんのさわやかな笑顔が大きく描かれています。

11月13日、ＪＡビル（加古川市、本店所在地）横、ふぁ～みんインテリジェントビル憩いの広場で、「ふぁ～みん農援隊」自動販売機の除幕式を開催しました。除幕式では、㈱ふぁーみんサポート東はりまの大竹雅彦社長のあいさつの後、㈱加古川産業会館の山脇成一郎専務が最初にコインを入れて、コーラを買い、除幕式に訪れた市民も次々に自動販売機から飲料を買っていきました。

除幕式を行う喜多太見男組合長（左）

http://www.ja-hyogo.or.jp/

風見鶏の館でヨーロッパ文化セミナーを開催しました

神戸市民生活協同組合は、昨年11月20日（金）に北野異人館の風見鶏の館にて、ヨーロッパ文化セミナーを開催しました。このセミナーは、風見鶏の館が西欧に縁深い館であることから、前年までのドイツ文化セミナーに続き、市民の方々に西欧の歴史や文化に触れていただこうと、2009年度より新たに始められたものです。

セミナー会場となった風見鶏の館

今回は「英語で異文化間コミュニケーション!!」というテーマで、姫路獨協大学大学院教授のストレイン・ソニア・園子教授に講演していただきました。日本語が母語でない異文化の人々と出会う機会が日常的になっている今日、共通語として英語が持っている明瞭性・論理性・伝達性を説明されました。また、異文化間におけるコミュニケーションとは、単に異文化を比較するのではなくお互いの異文化を認めて理解することが大切だと説かれました。

参加された方々からは、「職場における人間関係を考えるうえでも大変役に立った。苦手な人の考え方をなんとか理解する方法が見つかったと思う」、「今までに聞いたことがなかったお話、考え方をお伺いし、とても興味が沸きました」などの感想が寄せられました。風見鶏の館にも近年は多くの外国人観光客の方が訪れます。様々な国の人々が暮らす神戸ならではの開かれた施設を目指していきたいと思います。

ご自身の体験談を話されるストレイン・ソニア・園子教授

http://www.coop-hyogo-union.or.jp/

お詫び

去る12月発行の、拓水第638号6頁「兵庫県水産系統団体役職員OB会通常総会」記事中において、幹事：田尻重孝氏のお名前が記載されておりませんでした。ここに訂正の上、お詫び申し上げます。

旬に想う

写真と文
遊方子

博物館めぐり

◆三宮ハンター坂の角に《北野らんぷ館》があった頃、次女を連れて立ち寄った事がある。小さなランプが所狭しと並べられてあり、どれも可愛くて見とれたものだった。今、京町のビルの一角《神戸らんぷミュージアム》で「あかり」の歴史と文化に触れることが出来る。小さいランプも沢山並べてあるが、以前に見たものかどうか良く判らない。資料館や郷土館などミュージアム探訪は実に楽しいもので、出来る限り多くを見たいと思っている。ただ懐かしむ郷愁の気持ちだけでなく、古さの中に善さを求める「温故知新」でありたい。

◆《神戸市立博物館》に常設展示の「銅鐸・銅鉾」は、昭和39年12月桜ヶ丘の山腹で発見された。銅鐸14個の出土には驚かされたものだが、一括して国宝指定を受けた。人や動物の絵が彫られた２つの銅鐸は特に著名だ。この絵の意味を巡って色んな説があるが未だ定説はない。昆虫や獣・弥生人の姿などから害虫や害獣防除を願って、「虫送り」儀式に使ったのではとも言う。謎に包まれた物体である。これらは以前、須磨離宮公園にあった市立考古館で展示していた。その壁には銅鐸絵の人と動物がモニュメントされていたが、今は中央図書館の壁に移された。単純化した絵の意味を、あれこれ想像するのも面白い。

◆西宮浜にある《西宮市貝類館》は、世界の貝類を約2,000種5,000点を展示する特異な博物館だ。日本が誇る貝類研究者／黒田徳米博士の収集された40,000点に及ぶ貴重な資料標本を収蔵する。寄贈した菊池典男氏は、曾て香櫨園の自宅を貝類館として解放し、土産に貝１個を無料で貰えたが、此処も１人１個の土産付だった。貝と人との係わりを紹介し、重さ200Kgのシャコガイやケシ粒ほどの極小の貝があり、生きた化石というオウムガイを水槽の中に、文字通り生きている姿で見学できるのも珍しい。奥深い貝の不思議世界を堪能できる。

◆播磨町の大中遺跡は、昭和37年に中学生が大量の土器を見つけたのが切っ掛けで発見された弥生時代の集落遺跡だ。《県立考古博物館》はこの遺跡に隣接の広大な場所にあって、望楼に上がると大中遺跡が見下ろせる。館内の発掘現場再現コーナーは、触れて試して考古学を体験という参加型の展示が施してある。常設展示室では、古代人がマンモスを沼地へ追い込んで狩猟中だ、とてもリアルな人形を使い迫力満点である。発掘した鏃（やじり）や土器を唯並べる展示ではなく、人形を使った製作過程や使い方の説明は理解し易く、子供らに受ける方だと思う。古代の暮らしを蘇らせるイベントも企画されている。

「狛犬」（舞子六神社にて）

大輪田塾だより

「漁船法」と「漁業調整委員会」

12月22日(火)、兵庫県水産会館で大輪田塾が開催され、兵庫県農政環境部農林水産局水産課の内田径孝主査が「漁船法概要」と題し、また同じく水産課の平石靖人課長補佐兼漁政係長が「漁業調整委員会のしくみ」と題して講義が行われ、今回は第４期生２名、第５期生４名が受講しました。

内田主査は、漁船法と関連法令との関係から、登録手続き、機関馬力の表示法、総トン数の計算法に至るまで、また平石課長補佐は漁業法における漁業調整委員会の位置づけや権限と機能について、実例をもとに解説され、塾生は普段あまり詳細を知り得ない内容に大きく頷きながら受講していました。

内田主査の講義

平石課長補佐の講義

お知らせ

第13回山田記念賞表彰式及び祝賀会日程決定！

第13回山田記念賞の表彰式及び祝賀会が以下のとおり行われ、兵庫県水産賞を受賞された３名が表彰されます。

日　時：平成22年２月18日(木)　11時30分
場　所：神戸ポートピアホテル
南館16階　レインボー

表紙の言葉

「但州丸帰港式」

平成21年12月6日、10月下旬に香住港を出港して太平洋でマグロはえ縄漁業実習を実施していた「但州丸」が神戸港第３突堤に帰港しました。写真は、帰港式で祝辞を述べるJF兵庫漁連山口徹夫専務理事と祝辞を受ける４名の実習生。

発行：財団法人 兵庫県水産振興基金
〒673-0883 明石市中崎1丁目2番3号　兵庫県水産会館2F
TEL 078-919-1331　FAX 078-919-1336